

Junior Seminar 紹介



風間 末起子

『ジェイン・エア』から見る 19 世紀のイギリス文化

授業の概要

・この授業では、文化研究の材料として小説『ジェイン・エア』を使用することで、19世紀全般のイギリスの女性文化について研究していく。

・春学期は、(1) 19 世紀イギリス・ビクトリア朝の中産階級の女性像の変遷、(2) 映画化された文芸作品と原作の比較、(3) 衣食住文化、(4) 土地と文化、の 4 つのテーマのもとで学習していく。授業ではジェンダー‘gender’（社会的・文化的性）というキーワードを念頭において学習していく。

・秋学期は、(1) 19 世紀の英国絵画プレ・ラファエロ前派の絵、(2) 「美女と野獣」のモチーフ、(3) 19 世紀の女性の精神的な病い、(4) 聖書的アリュージョン、の 4 つのテーマのもとで学習していく。

授業ではジェンダー‘gender’（社会的・文化的性）というキーワードを念頭において学習していく。

・研究倫理についてもふれる。

到達目標

・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。

・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

関連の作品・研究書・文献を使って、精読と発表形式（グループごとの）で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

授業の概要

アメリカ文化全般を、映画を用いて研究する。われわれはアメリカ映画をみるとき、作品の背景にある文化的・歴史的事項を知ることなく、表面的な面白さに満足してしまいがちである。たとえば、『風と共に去りぬ』は人種差別的要素を多分に含んだ作品であるのだが、そこを見過ごし、南部貴族の華麗な世界やヒロインの不屈の生き様のみに焦点をあてて鑑賞する。クラスでは、映画の背景にある文化的知識を解明することにより、アメリカ文化に関する知識を深め、より深く作品を理解し、さらに批判的精神をもって作品を分析していきたいと考えている。

到達目標

アメリカ文化全般に関する知識を増やす。その中から自分が一番興味のもてるトピックを決めて、書籍や論文などを読み研究を深めていく。自分の研究結果を口頭や論文で発表できるようにする。

授業方法

- I : 講義の後に質問や意見を聞く。アメリカ文化に関する指定したトピックでペア発表をおこない、その後にディスカッションをする。
- II : 各自の口頭発表を中心に、講義、講読、AV資料をみでのディスカッション等をおこなう。

小山 薫 1/2

授業テーマ

春学期：マザーグースにみるイギリス—人・風土・歴史

秋学期：マザーグースの影響力—イギリスの人と暮らし

授業の概要

春学期：イギリスの伝承童謡群〈マザーグースの歌〉が根強い人気と生命力を保ちながら歌い継がれ、現代でも新聞の見出しや文学、映画でもじられるばかりか、挿し絵や日用品、パブサインにも描かれ、人びとの日常生活に深く浸透すると共に、その性格形成にまで大きな影響を及ぼしてきたことは、よく知られている。本講座では代表的マザーグースをとりあげ、その多岐にわたるテーマの中でも、特にイギリスの風土や国民性、年中行事、興味深い歴史的エピソードや人物などに焦点をしばって分析する。イギリスの社会や文化について、知識と理解を深めたい。

秋学期：本講座では、イギリスの詩人James KirkupによるエッセイMother Goose's Britainの精読と、グループ発表を通して、マザーグースが過去から現代にいたるまで、人生のさまざまなステージ（誕生→ 幼少期 → 青年期 → 壮年期 → 晩年）で、イギリスの人と暮らしに与えつづけてきた多大な影響力について、多角的に考察する。簡潔明瞭で味わい深いKirkupの文章の魅力にひかれて、どんどん読み進むことができるだろう。イギリス社会や国民性、物の考え方について知識と理解を深めると共に、私たちひとりひとりが、自らの〈より良い人生〉を追求するきっかけとしたい。

授業方法

講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

小山 薫 2/2

到達目標

春学期：・代表的マザーグースに関する知識（押韻、背景、影響力など）の修得

・代表的マザーグースをメロディーやリズムをつけ、きれいな発音で暗唱する能力の修得

秋学期：・James Kirkup, Mother Goose's Britainの精読を通して、

イギリスの社会や生活、国民性に関する知識を修得

・代表的バラッドに関する知識（詩形、背景、歴史など）の修得

春秋共通：・プレゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成）の向上

・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している

・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識をもっている

福島 祥一郎

19世紀中頃（アメリカン・ルネサンス期）の文学と文化

授業の概要

私の専門は19世紀中頃のアメリカ文学、特にポーやホーソンを中心としたアメリカン・ルネサンス期の文学です。この時期のアメリカは、独立後の混乱期を経て、ようやく独自の文化を形成しはじめた時期でありながら、その背後で様々な矛盾が生れていた時代でもあります。ゼミでは、ポー文学における南部社会における視線の問題やホーソン文学における女性表象について考えるほか、人種問題（奴隷制やフリークショー）、ルイザ・メイ・オルコットらの小説（or映画）の背後にある19世紀のアメリカと女性などについて文献や資料等を読み、発表してもらいます。19世紀と聞くと、21世紀を生きる私たちには遠い昔のことに思えてしまいがちですが、むしろ現代を生きる私たちが直面している〈生きづらさ〉や〈不安〉の原型がそこにあります。19世紀のアメリカを知ることで、皆さんが今を生きる新たな視点を獲得できればと願っています。

到達目標

物語の背後にある歴史的・社会的コンテクストを読む力を養い、自分なりの切り口（問い）から書籍、論文などを用いて研究を進めていけるようになることを目指します。また、19世紀のアメリカ社会・文化について、現在のアメリカ（および現代社会）までつなげる歴史的連続性を意識しながら、考察することができるようになることも目標です。

授業方法

発表形式（グループごとの発表とディスカッション）を主としますが、テーマについての背景知識、時代状況についての講義、必須となる文献の紹介・精読も併せて行います。

授業の概要

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and performing a variety of literary texts, including poems, short stories, examples of documentary narration, and excerpts from scripts for film or stage. Students will deepen their awareness of the expressive potential of language, its sounds, rhythms and images, develop their ability to connect with an audience, and see how dramatic theme and tension are developed in scripts. We will rehearse a scene from a play or a film for a partial performance at the end of the year, depending on numbers in the class. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. The choice of text or texts will depend on the number of students enrolled.

到達目標

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.

授業方法

Students are expected to read texts in English in advance, to analyse language and characters (when working on scripts), and to collaborate closely in performance activities. In class students will read various texts that are suitable for performance and discuss the development of characterization and theme. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulation and projection.

The class is conducted entirely in English.

授業の概要

This course will be exploring and examining themes surrounding culture, society and communication. In particular: society and diversity, intercultural communication and intercultural competencies

到達目標

- (1) Students will be exposed to a variety of topics in examining and comparing Japan with different countries and cultures.
- (2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
- (3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, concluding with a final report and presentation at the end of term.

辻 英子

英詩を読む①
英詩を読む②

授業の概要

①このクラスでは、英文学の理解を深めるとともに英語音声表現能力を高める目的で、英詩の分析と朗読を行う。英詩の成り立ちと形式について書かれた英文テキストを読み、詩についての基礎知識を得た上で、ロマン派やヴィクトリア朝の比較的易しい詩を取り上げ、分析、朗読の練習をする。

②このクラスでは、英文学の理解を深めるとともに英語音声表現能力を高める目的で、英詩の分析と朗読を行う。英詩の歴史的発展とその特色について書かれた英文テキストを読み、詩についての理解を深めると同時に、エリザベス朝から現代までの様々な詩を取り上げ、分析、朗読の練習をする。

到達目標

- ・英詩の分析と朗読を通して、英文学の理解を深め、英語の読解力と音声表現力の向上をはかる。
- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
- ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

①毎回の授業で英文テキストを数ページずつ読み進む。テキストの内容についてのディスカッションや詩の朗読練習（個人及びグループ）も行う。学期末には詩の朗読発表会と定期試験を行う。

②テキストの精読と並行して、詩の分析、朗読練習を行う。学期末には、クラス内での朗読発表会を行い、各自が詩の分析をするレポートを提出してもらう。

授業の概要

このコースでは「言語音」に焦点をあて、母語である日本語と学習語である英語を比較しながら、言語をとりまくルールについての知識を深めることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。普段、自然に聞き、話していることは「なぜそのように発音されるのか」「なぜそう言うのか」を説明できることは楽しく、自分自身を知ることにつながる。言語を話すということが、いかに複雑で神秘的なものかに気づくことになるだろう。普段、無意識に話していることは不思議な世界を少し覗いてみよう。このコースでの学びにより受講生が、phonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processing など、さまざまな分野へと興味を広げることを期待する。このコースでは International Phonetic Alphabet (IPA)を使用するため、受講にあたり、「英語音声学 I & II」「Pronunciation Skills I & II」を履修していることを強く勧める。またこの授業では研究倫理についても指導する。

注意：「英語の発音練習」のためだけのゼミではない。

到達目標

普段話していることが「なぜそういう発音になったか」「どうしてそう言うのか」を説明することは容易なことではない。なぜなら自然に、無意識に話しているからである。このゼミでの目標は、受講生が

- ・与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つけることができるようになる
- ・英語と日本語のそれぞれの言語構造の特徴について理解できるようになる
- ・言語に関する社会問題や異文化に対する強い関心を持つことができるようになる
- ・自らの意見や考えを分かりやすく表現できる力を身につける
- ・ゼミを通して、自らの置かれた立場での役割・責任、リーダーシップを発揮しようとする意欲を高めることができるようになる

ことである。

授業方法

このコースは講義を中心に行うが、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、ディスカッション、発表、課題提出により受講生の理解を確認する。ゼミ生間の親睦と理解を深めるため、ゼミ合宿や大学行事へ参加する場合がある。

授業テーマ

若本 夏美

Learning English as a global lingua franca (i-Seminar XXII)
Using English as a global lingua franca (i-Seminar XXII)

授業の概要

English has been more learned or used as a global lingua franca (EGLF; international language) all over the world. This seminar explores how learners can improve their EGLF skills, examining appropriate and effective learner strategies. This seminar will be categorized in the field of Applied Linguistics (the study of teaching/learning/using a second/foreign language).

到達目標

Goals of the spring semester are three-fold: (1) to get to know each other; (2) to know key terms of Applied Linguistics, specifically Second Language Acquisition (SLA) research; and (3) to understand the three major learning theories. At the end of the spring semester, participants are expected to discuss issues on SLA using technical academic terms and establish foundations to examine how to be "a more successful language learner."

Goals of the autumn semester are three-fold: (1) to examine learner factors that potentially affect learning EGLF; (2) to understand the concept of the Best-Fit Strategies (BFS) ; and (3) to find their BFS. At the end of the autumn semester, participants are expected to develop their English proficiency using their BFS.

授業方法

Lectures will introduce new concepts and theories, and selected part of the textbook will be assigned for writing entries (critical summaries, six times) and discussing in class. Students will give one oral presentation on the textbook. This seminar is conducted bilingually (mainly in English). This seminar is called "i-Seminar," which indicates internet-seminar or I (me)-seminar. Accordingly, the internet (use of computers, smartphones, LINE, Facetime, Instagram, etc.) is encouraged to be used inside or beyond the session. Although this seminar does not necessarily expect high English proficiency or expertise in foreign language learning/teaching, participants are expected to contribute to making a NICE (Nifty, Innovative, Collaborative, Energetic) seminar. This is the DNA of Wakamoto seminar, which runs and has developed since Seminar I. You will be 22nd seminar members. Everyone is welcome!

授業の概要

この授業では、英国（特にイングランドとウェールズ）の高等教育を担ってきた様々な文化人の述べる意見を通して、日本の高等教育と比較しながら改めて英国についての理解を深めると共に、日本社会に生きる自己を見つめなおす機会になることを希望する。

到達目標

- 1) 英国の文化や社会について全体像を把握する
- 2) 英国人と日本人の思想、考え方についての比較検討を試みる
- 3) 卒業論文に向けて、パワーポイントで自らの意見を纏め、発表する練習の実施

授業方法

毎回の授業でテキストを読みながら、多様な英国人の考え方についてディスカッションをする。
また、全員にパワーポイントでの発表を実施してもらう。



授業の概要

アメリカ合衆国とカナダは、隣接した植民地として始まり、いずれも連邦国家を建設し、多くの移民を受け入れるという共通の過程を経験しながら、異質の社会と文化を作り上げている。その深層は、北米という広い視野から見直してみると、より鮮明に浮かび上がってくる部分も多い。そのような問題意識のもと、アメリカとカナダの社会構造、文化的諸相、歴史的経緯を中心に、共通点と相違点を検証することによって、両国の特質を多面的に考察する。

授業では、アメリカとカナダの現状や歴史に関する基本的な事柄を理解することから始めて、その比較により徐々に専門的知見を深めていく。外国の文化や社会について研究するための方法を学び、受講者各自が英語圏諸国に対する問題意識を高めることを重視しつつ授業を進行する。

到達目標

- 1) アメリカ合衆国とカナダの文化や社会に関する比較考察を通して、英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎知識を身につける。
- 2) 授業で取り上げられる諸問題や個人研究を通して、広く北米事情や世界の諸問題について自分なりの見識をもって考える姿勢を身につける。
- 3) 自分自身の関心に基づいて研究テーマを設定し、英語による情報を用いて適切に調査・分析・考察を行い、論理的に言語表現する能力を身につける。

授業方法

受講者による発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。

受講者は、各自の関心に基づき個人研究を進め、年度末には研究成果のまとめとして小論文を完成させる。個人研究のテーマは、授業で扱うトピックに限定されない。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

状況が許せば、年度中にゼミ合宿の実施を計画する。



2021年度から新しく英語英文学科に
仲間入りしてくださる先生です！

未定

とっても優しい先生です！

授業テーマ

春学期：Mass Communication I
秋学期：Mass Communication II

授業の概要

春学期：This course will cover the history of Mass Communication media, the current state of each medium, and the future potential of Mass Communication. The place in society of the Mass Communication industry will also be considered.

秋学期：Building on the skills and knowledge developed in Junior Seminar I, this course will involve extended research into how the Mass Communication industry represents issues selected by the students.

到達目標

春学期：・Students will learn about the history, present and future of Mass Communication media.

・Students will learn to critically examine the role of the Mass Communication industry in society.

・Students will learn how to write research papers.

秋学期：・Students will learn how to conduct research into the ways various media report issues.

・Students will learn how to write a research report.

授業方法

春学期：Coursework will include in-class discussion, group work, presentations and written reports. Student-led research is an important element of this course.

秋学期：Coursework will include in-class discussion, group work, and written reports. Student-led research is an integral element of this course.